

## 2024年度入学試験問題

### 小論文

(教育学部 養護教諭養成課程 前期)

#### 注 意

- 1 問題冊子は1冊(4ページ), 解答用紙は3枚, 下書き用紙は3枚です。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明, ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により解答できない場合は, 手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 すべての解答用紙に, それぞれ2箇所受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は, すべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 5 試験終了後, 問題冊子と下書き用紙は必ず持ち帰りなさい。

問題1 次の資料Ⅰ、Ⅱを読み、設問1、2、3に答えてください。

資料Ⅰ

自由に考えるためには「何を言ってもいい」ということが必要なのだが、この原則からすると、学校は正反対の場所である。そもそも学校では言うべきことが決まっている。それは「正しいこと」「よいこと」「先生の意に沿うこと」である（正確に言えば、「正しいとされていること」「よいとされていること」「先生の意に沿うとされていること」である）。

それ以外は言うてはならない。間違っただけを言えれば「違う」と否定され、悪いことを言えれば「そんなことを言てはいけない」と論<sup>と</sup>され、先生の意に沿わないことを言えれば怒られるか嫌われる。そうやって言ていいことと悪いことの線引きがなされている。

もちろん厳しい先生もいれば、やさしい先生もいるが、そういう線引きがあることじたいは変わらない。そして生徒たちは、自分が肯定されたり否定されたり、他の人がほめられたりけなされたりするのを見て、いつどんなことを言ていいのかわからないのかを身につけていく。そうすると先生のほうも、いちいちダメ出しをしなくてよくなる。それが「いい生徒」になるということであり、そういう生徒が多ければ、「いい学校」と言われる。

たしかになかには、教師に反発して、言いたい放題の生徒もいるだろう。いつまでたっても言うべきことが分からない、物分りの悪い生徒もいるだろう。

けれども、いずれにせよ、「正しいこと、よいこと、先生の意に沿うことしか言てはならない」ということ、何が正しく、何がよく、何が先生の意に沿うかという基準があることじたいは——その基準はかならずしも明確ではなく、つねに一定しているわけでもないが——けっして変わらない。反抗的な生徒でも、そうした基準を受け入れたうえで反発しているだけだ。

こうして生徒たちは、特定の基準にそくして評価され、選別され、序列化され、場合によっては周縁に追いやられ、果ては排除される。まずは教師によって、やがては生徒どうしてもそうした位置づけをお互いにするようになる——「あいつ頭悪いよな」「あの子ヤバくない?」「あいつってホントKYだよな」と。学校というのは、どんな

に乱れていようと、こうした選別と序列化と排除によって、秩序を維持し更新するところである。

このようにして私たちは、「正しいこと」「よいこと」「先生の意に沿うこと」を言うように教育される。それがどれだけできるかによって、居場所が決められる。同じことは社会に出てからも続く。「先生の意に沿うこと」が「上司の意に沿うこと」に変わるだけだ。

上司から「何でもいいから意見を言え」と言われ、思ったことを言たら、「何を言てるんだ!」とか「そんなことしか言えんのか!」と怒られたなんていう経験は、珍しくないだろう。怒られなくても、「うーん」と何となく却下されたり、「なるほど」と軽く流されたりする。だから何か聞かれても、上司が言てほしそうなことを察して、それっぽいいことを言てやりすごせばいい。やっていることは、学校と大差ないのだ。

家庭でも学校でも会社でも、私たちはその場にふさわしいこと、許容されそうなことだけを言う。そうでないことを言うのは、明に暗に禁じられてきたか、自ら控えてきたかだろう。TPOをわきまえる、空気を読むという、世間的には「大事」とされることも、結局は同じことだ。「言いたいことを言わない」のは、しつけと教育の見事な成果である。その意味で家庭も学校も、いろいろ問題はあっても、今日なお社会に出るための準備をする場として、その役割を十二分に果たしていると言える。

出典：梶谷真司著 考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門

資料Ⅱ

いとう ツイッターの弊害みたいな話が出たけどさ、俺なんかは誰かに直接「ああなるほど、それいいね!」とか言われると、この人はなんで上から目線なんだろうって反発を感じたりするんだけど(笑)、SNSだとなぜか気にならないわけ。それって不思議だよな。本当は上から目線の承認かもしれないのに。

星野 相手が共感していないように感じているから、上から目線に思えるのかもしれないね。面と向かっての対話ってアナログで、言葉以外にもい

ろんなものを伝えているから、明らかに上から目線を感じさせる話し方をしなくても、その相手には、いとうさんに猜疑心を起こさせる何かがあるのだと思います。それか、いとうさんがとても疑い深いか(笑)。でも、その相手が、言葉や雰囲気で共感を表現していたら、「いいね！」と言われて素直に嬉しいかもしれませんよ。

いとう 共感があってからの承認だなこれは、ってわかるとイラつかないわ確かに。

星野 SNSだと、「いいね！」は単なるデジタルな信号なので、猜疑心を起こさせる何かすらないのかもしれない。

いとう 受け手がその「いいね！」を良い意味にも悪い意味にも取れるってことだよ。

星野 そうですね。

いとう たまにツイッターで見るんだけど、「リツイートが承認とは限りません」とか書いてる人いるじゃない？リツイートをバンバンしてて、一体どんな立場から、何をリツイートしたいと思っているのかが、よくわからないわけ。賛成でも反対でもなく、ただのデータとしてリツイートしていることもあるんだろうけど、それって対話が成立してないんだよね。

星野 そうですね。やっぱりデジタルなものになると、ニュアンスがはぎ取られてしまって、人間的なやりとりじゃなくなるんですよ。ゲームで得点稼ぐみたいなき感じになりがちというか。

いとう そうだね。それに近いと思う。

星野 相手が目の前にいれば「いいね！」に疑いを持てるけど、フェイスブックとかで「いいね！」がつくと、無条件で嬉しいし、認められた感じがする。

いとう 砂糖を食べて血糖値が上がっちゃってるみたいな感じだよ。

星野 それくらい単純なメカニズムで無条件に得られる高揚感と言えますね。でも、実際は「いいね！」をつけてる相手が自分に共感してくれているかはまったくわからないわけです。これってとても空虚な状態なので、コミュニケーションするときにはやはり、共感が言葉や雰囲気で行われる

①「うまい傾聴」を心がけたいですね。

出典：いとうせいこう、星野概念著 ラブという薬

設問1 資料Ⅰの文章に、著者の意図をふまえたタイトルをつけ、その理由を説明してください。

設問2 資料Ⅱの下線部①の、「うまい傾聴」とはどのようなものですか。100字以内で説明してください。

設問3 資料Ⅰ、Ⅱをふまえて、あなたが考える「自由に考える力が育つ学校」について説明してください。また、そのような学校をつくるために、養護教諭として取り組みたいことは何ですか。400字から450字以内で述べてください。